

上交第 4837 号  
令和 5 年 2 月 20 日

浦川原区地域協議会  
会長 藤田 宏禎 様

上越市長 中川 幹太  
(企画政策部 交通政策課)



浦川原区地域協議会からの意見書について (回答)

令和 5 年 2 月 2 日付けで提出のありました意見書について、別紙のとおり回答します。

**【意見1】**

令和6年春の敦賀延伸を見据え、北陸新幹線の停車駅である上越妙高駅へのほくほく線の乗り入れを復活するとともに、本数を多くすること。

直江津駅での乗り換えを少なくすることにより、関西方面への移動の利便性向上を図る。なお、直江津駅で乗り換える場合は、高齢者・障がい者等に配慮し、同一ホームでの乗り換えとすること。

**【回答】**

上越妙高駅への乗り入れや直江津駅での乗り換えについては、鉄道各社が利用状況や保有する車両数、車両の折り返し、他社の鉄道との接続など、様々な要素を勘案し、調整しております。

このたびの利便性向上に関するご意見につきましては、取組の参考としていただけるよう北越急行株式会社にお伝えいたします。

**【意見2】**

JR黒井駅にほくほく線列車の停車本数を多くすること。

直江津地区工場群の通勤者（交代勤務者も含む）に「ほくほく線」の利用促進を図る（パーク&ライドによるSDGsの実現）。

**【回答】**

JR黒井駅への停車本数については、意見1に対する回答と同様に、北越急行株式会社が様々な要素を勘案し、調整しております。

このたびの利便性向上に関するご意見や、利用促進に関するご提案につきましては、取組の参考としていただけるよう同社にお伝えいたします。

**【意見3】**

当地域の農産物生産者や民間事業者が北越急行㈱のネットショップ網を活用して地域の特産品等を販売し、利益の一部を北越急行㈱に還元するとともに地域の活性化につなげる。

**【回答】**

北越急行株式会社のネットショップにおいては、ほくほく線の利用促進やマイレール意識の醸成につながるグッズを販売しており、収入確保の一つの方策として実施しているものと認識しております。

市といたしましては、地域からの提案を同社へ取り次ぐなど可能な支援を行ってまいりますので、具体的な実施内容案を作成いただき、浦川原区総合事務所へご相談ください。

**【意見4】**

北越急行㈱が製造する新車両には、必ず車内トイレを設置すること。

**【回答】**

ほくほく線車両内のトイレ設置につきましては、平成29年度の貴会からの意見書に対する回答のとおり、北越急行株式会社に対し、新車両導入時にはトイレ付車両を導入するよう提案してきたところであります。

同社からは、新車両導入時にトイレを設置する方向で検討を進めていると聞いております。引き続き、市民の要望として、このたびのご意見を同社にお伝えいたします。

**【意見5】**

虫川大杉駅・うらがわら駅両駅舎を活用し、地域の方々が企画・運営するイベントにより駅舎周辺の活性化と「ほくほく線」の利用促進を図るために必要な支援をすること。

例えば、駅舎前広場でのマルシェ（地元生産者やキッチンカーの出店）や駅舎でのカフェ（茶屋）などのイベントを地域運営で開催するための協力。

**【回答】**

ご意見にあるとおり、駅舎を活用することにより、鉄道や駅舎等への愛着・理解を高め、沿線住民のマイルール意識の向上や利用促進につながることを期待できると考えます。

ご提案いただいたイベント内容によっては、市の支援メニューを活用できる場合もありますので、具体的な取組をご検討いただき、浦川原区総合事務所へご相談ください。